

現代社会に生きる私たちと西欧の歴史

—European history for today: What can we learn from the past?—

社会科教育・森 貴子

1. 授業の基本情報・概要

2015年度後期・月曜日2限開講の外国史 I は、二回生以上を対象に、上記タイトルで開講された。登録者数は 29 名であった。西洋史分野（外国史 I・II・III）では例年最も多くの、かつ多様なコース・専修の学生が履修するのが本講義である。2013 年度にも授業評価の対象としている。

(1) 講義の目的

本講義では、現代社会の特質を、資本主義の生まれた西欧を場として歴史的・長期的観点から捉え直させ、今という時代がどんな時代であるのかという「歴史感覚」を身につけさせることを目的とした。また、中学校社会科や高校地歴の教員を目指す学生が多く受講するため、中世から近現代について最低限必要とされる西洋史の知識を獲得させたいという思いがある。

具体的な目標としては、①中世から近代の歴史を、人類の生活形態、社会経済様式に注目しつつ概観することで、資本主義成立以前と以後で生活がいかに変化したのか、②そしてそこにどのような発展が見られるのか、③また如何なる問題が生じたのかについて、理解させることを目指した。

(2) 講義の詳細

授業は、基本的に、講義形式で行われた。『あなたが歴史と出会うとき』（堺 憲一著、名古屋大学出版会、1989 年）を主なテキストとしつつも、そこに独自の内容を織り込みながら中世農村から近代資本主義社会までを概観し、現代社会との関連で問題を整理した。扱った内容は、主として、荘園制（領主＝農民関係／農村共同体／農業制度）、中世都市（都市共同体と自治／ギルド）、大航海時代（覇権の変遷とその要因）、農村工業とその展開、資本主義的精神の成長、そして産業革命とその功罪である。

学生に対しては、テキストについて、各回

の授業で扱う範囲を事前に読み込み、自分なりの理解をしておくことを要求した。また、各回の内容に沿った史資料を可能な限り準備して、学生による理解を手助けすると同時に、ビデオなどの映像資料も利用して、各々の時代をイメージしやすいよう工夫した。取り扱う内容については、各々のテーマをめぐる最近の研究動向に触れながら、歴史解釈は不変ではないこと、テキストはある特定の視点からの叙述であることを強調している。

2. 授業評価の内容と結果

授業評価は、学生に無記名アンケートを実施し、その結果にコメントを付すことで行うこととした（2016 年 2 月 15 日の筆記試験終了後に実施）。受講登録者 31 人中、アンケート回答者は 26 名（社会科教育二回生 10 名・三回生 1 名／人間社会デザインコース二回生 5 名／国語教育 2 回生 3 名／教育学二回生 2 名・四回生 1 名／教育心理学 2 回生 1 名／国債理解教育コース二回生 1 名／音楽教育三回生 1 名／所属不明 1 名）であった。

◎問 1～6 は、次の五段階で評価してもらい、下表のような結果を得た。

<評価基準>

- 5：強くそう思う（非常に良い）
- 4：ややそう思う（良い）
- 3：どちらとも言えない（普通）
- 2：あまりそう思わない（あまり良くない）
- 1：全くそう思わない（良くない）

<問い>

- 問 1 この授業への出席状況は
- 問 2 授業のテーマ・目的は、明確でしたか
- 問 3 教員の説明は分かりやすかったですか
- 問 4 配付資料・映像資料などは有用でしたか
- 問 5 授業の内容・レベルは、あなたにとって適切でしたか
- 問 6 授業によって考え方が培われたり、得るところがありましたか

評価	5	4	3	2	1
問 1	7	9	6	4	0
問 2	16	10	0	0	0
問 3	17	6	3	0	0
問 4	13	12	1	0	0
問 5	10	10	4	2	0
問 6	12	10	4	0	0

*問 1～6 に対するコメント

問 2：各テーマの課題が分りやすかった

問 3：少し板書のスピードが速かった

問 4：NHK のビデオが分りやすかった

問 5：経済学を履修していたので、分りやすかった

問 6：中世農民の生活を追究できたところがよかった

◎ 問 7、問 8 は記述式で解答を求めた。以下、紙幅の制約上、内容を整理して取り上げる。

問 7 この授業で良かったと思う点、印象に残った点を挙げてください。

資本主義の成立について、イギリスの産業革命を中心に学べた（複数回答）／思想や宗教的要素／説明が分りやすい（複数）／封建制・荘園制下での農民の暮らし（複数）／板書が速いの綺麗な、見直しやすい（複数）／経済というテーマで世界史を学べた（複数）／視聴メディアの利用／授業のあと、テキストを読むとより深く理解できた／時系列で分りやすい／資料が豊富で楽しい／内容の繋がりを認識できた

問 8 この授業で改善すべき点を自由に挙げてください。

板書が速い（複数回答）／授業のスピードが速い／板書が多すぎる（複数）／もっと教科書を使って欲しい／テストでどれくらい書いたらいいか分らなかった／板書よりレジュメを配布してくれた方がいい／板書が多すぎて書くことに集中してしまい、話が入ってこない（複数）／内容が多すぎてついていけない

3. 「授業時間外学習の促進」について

アンケートでは、問 9 として、授業時間外学習時間について尋ねた。

問 9-(1) 授業外学習時間は、どのくらいでしたか。 週に平均 () 時間？

- ・ 1 時間以上 11 名
- ・ 20 分から 30 分程度 10 名

・ 0 時間（全くしていない） 4 名

・ 回答なし 1 名

問 9-(2) 主として何を目的に勉強しましたか？あてはまるものに○を（複数回答可）

① 予習 5 名 ② 復習 15 名

② 授業で分らないことを調べた 10 名

③ その他：具体的には？

→小レポートのため 1 名

→ノートのまとめ 1 名

問 9-(3) 授業外学習は、何をを用いて行ったか？あてはまるものに○を（複数回答可）

① 授業で使ったテキスト 21 名

② ほかの教科書(高校教科書等) 8 名

③ 書物・論文 2 名

④ その他：具体的には？

→インターネット 3 名

→ノート・板書 3 名

問 9-(4) 教員による指示（「テキストのどこを読んでおくべきか」）や参考文献の紹介は、授業外学習をする際に役立ちましたか？

① はい 17 名 ② いいえ 1 名

② どちらとも言えない 6 名

*何かコメント？「テキストが面白かった」

<授業時間外学習についての小活>

テキスト該当箇所を指示した上での予習・復習の勧め、関連文献の紹介に加えて、今期は新たに授業内で小レポートを書かせてみた（オランダの独立について。前の授業で予告した上で実施）。また試験問題を早期に発表し、授業外学習への動機付けを試みた。それでも全く勉強していない受講生も確認できたことから（試験勉強は？）、学生が当然のこととして自ら学習する習慣を身につけられるよう、さらに工夫する必要がある。

4. 総括

板書については、前回アンケートと同様の結果となった（賛否両論）。授業者としては、緊張感を持たせるためにも、ある程度の速度で板書するのは当然という気がする（ためになったという意見もある）。気がかりなのは、授業で扱う内容が多すぎると回答した受講者の存在である。そこには自ら努力して理解し、知識を得ようとする態度が見られない。授業時間外学習により、テキストの面白さに気づくことができた学生と、そうでない学生との差は大きい。どうしたらこの差を埋めることができるのか、今後の課題である。